

部門システムのポータル化を可能に
 人の手を煩わせないシステム導入により、業務のスピードが向上



STELLAR・Nazca 使用風景

導入経緯

検査画像のポータル化に向けてデータを統合的に管理できる STELLAR が選定候補に

今回のシステム導入にあたり、検査データの集約、また診療においての各部門システムの入り口の一本化をしたいと考えていました。

画像以外のもの、例えばレポートや同意書・診断書など検査画像に付随するものもこれほどの大規模病院になりますと紙ベースでの運用では賄いきれない部分が出てくるのでは、と懸念しておりました。かといって画像以外のものを「電子カルテに貼るのか、もしくは部門システムに収めるのか…いずれにしても見る場所が別々では困る。保存先にかかわらず見る場所は一箇所であって欲しい」というのが今回のシステム導入の軸のひとつでした。

まだポータルが世の中にあまり実用化されていない中、ベルクリニックさんでの施設見学で初めてアストロステージのシステムを拝見し、健診システムと画像 PACS の入り口となるポータルシステムを見て、当院で構想していたポータルのイメージが重なったことで、すでにベースの出来ているアストロステージの STELLAR が選定候補にありました。もちろん、選定候補の中には当時先頭を切っていたポータルを作っていた大手 PACS メーカーもありましたが、院内での評議の結果、最終的にアストロステージに決めさせて頂きました。

決め手としては会社の規模や資産などではなく「今、使えるもの」、これをイメージ、実現させてくれると確信したのはアストロステージの STELLAR だったからです。構築にあたってはヒアリングを重ね、幾度も打ち合わせを積み上げ、我々の要望に応えてくれる姿勢にもパッケージ商品として構築される他メーカーとの違いを感じました。

導入効果

人の手を介すことなく検査結果の参照が可能になった

当院では第3次救急医療施設としての搬入も受け付けているため、検査は24時間行われています。その最中に STELLAR では画像だけではなく血液検査データの表示から心電図の波形データまで、診療や検査に必要な情報が人の手を煩わせず円滑に検査結果の参照ができることで、大幅な業務効率化に繋がりました。本来はカルテ上でしか閲覧できないアレルギーや体内金属、感染症などの患者付帯情報も、電子カルテメーカーとの連携もあり STELLAR の時系列で確認できることは大きなメリットだと感じます。

また、今回 STELLAR は放射線 PACS の入り口として存在し、他メーカーの呼び出し連携を行う中でバックアップビューアとしての位置づけであった NazcaView も分かり易いアイコン表示や、ドラッグアンドドロップで簡単に過去検査、他検査の参照ができることから NazcaView の存在も現場で大いに活躍しているという声もあがっています。

特に一括して情報を要するオペ室では、時系列での過去画像から当日画像まで全てが表示されていることで、操作をする看護師にとっても非常に有効なツールになっています。



診療部長 兼 放射線科診療科長 本多正徳氏

済生会宇都宮病院：システム導入時期 / Jan 2010



当院は1972年の開設以来、地域の中核病院として発展を続けてきました。1981年には栃木県救命救急センターを受託し、現在では644床の病院として施設の拡張工事や医療機器の更新を重ね、中核病院に相応しい最新の設備を有しております。現在、当院には約170名の医師をはじめとしたおよそ1300名の職員が勤務しております。

診療機器は PET/CT・MRI・64ch MDCT・血管造影装置・放射線治療装置などの機器を設置し、入院診療施設は ICU/CCU・NICU・救急病棟・手術室などのほか、一般病床とは別に緩和ケア病床などが組織され様々な病状・ニーズに対応できるよう充実した病院機能を有しています。

所在地：栃木県宇都宮市竹林町 911-1
 病床数：644床
 診療科：総合内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科・腎臓内科
 糖尿／内分泌内科・血液／リウマチ科（膠原病リウマチ疾患）
 血液／リウマチ科（血液疾患）・外科・呼吸器外科・整形外科・人工関節センター
 形成外科・脳神経外科・大動脈センター・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科・泌尿器科
 小児科・産婦人科・放射線科・麻酔科・超音波診断科・神経科・救急診療科
 健診診療科・リハビリテーション科・心臓血管外科

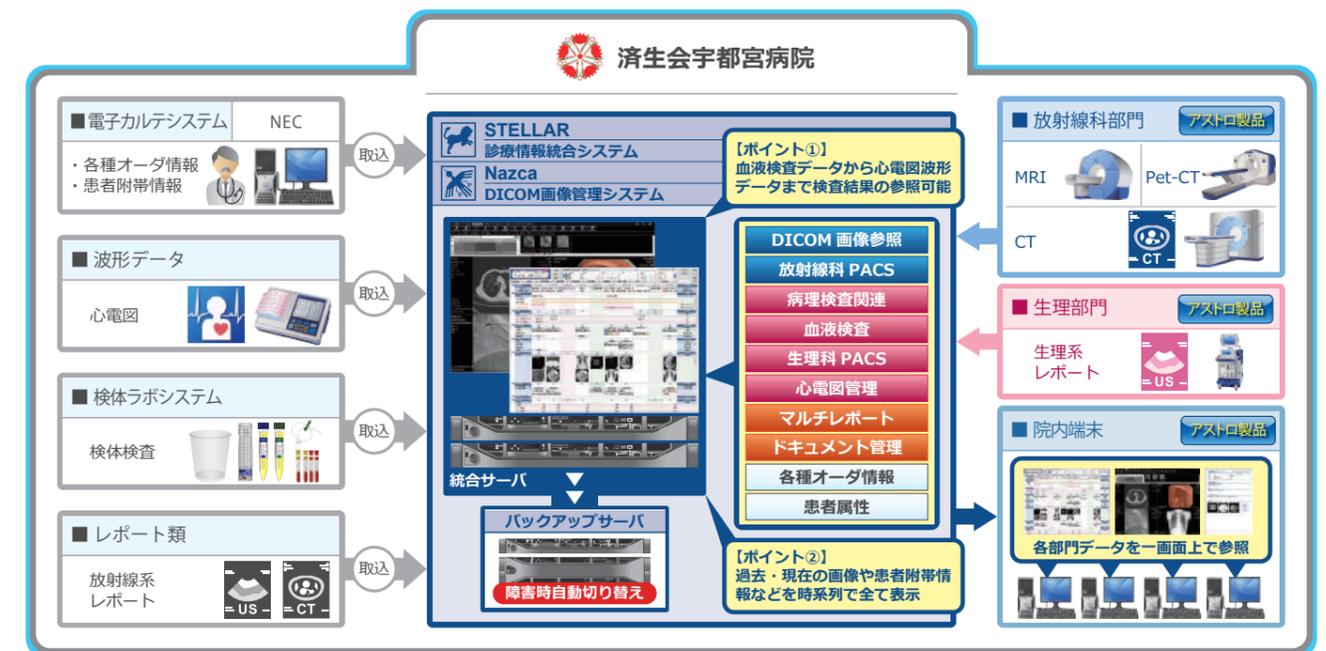
導入システム

- DICOM 画像管理システム Nazca
- RIS システム NazcaRIS
- 診療情報統合システム STELLAR
- ドキュメント作成&管理システム STELLARReport

今後の期待・要望

紙でページをめくる速度「パラパラッ」とその間、1秒。その1秒で画像参照やレポート、検査データなど複数の参照が可能になればこれまでの紙運用に勝るスピードになり、アストロステージにとってより一層の強みになると思います。

システム構成図



導入前の課題

- 膨大な検査データの管理・運用
- カルテ上でしか閲覧できない情報

導入後の効果

- PACS や検査データのポータル化によりデータの一元管理が実現
- 場所を選ばず患者付帯情報まで時系列確認が可能に